

# シーズ 夢を創る

「茶ら男」と言えば山田典彦さん。

カールおじさん風の出で立ちでご自分をキャラクター化し、イベントに登場したり、テレビ番組でお茶の魅力を発信したり、はたまたアメリカ大陸に渡り、富士のお茶のおいしさを伝えたり、数ある富士市のお茶農家さんでも、ユニークな存在ではないだろうか。



一体、山田さんが家業を継ぐと決めたきっかけは何だった

のだろうか。それは、中学2年の頃、お茶の苗の植え付けを手伝い、収穫、加工に至るまで行った体験だったそうだ。



## 茶レンジャー 山田 典彦さん（中里3）

高校卒業後、東京にある農業大学校に進むが、在学中の様々な経験や学びから、今に繋がる大きな影響を受けたように思う。九州での酪農、福島での桃栽培、栃木での稲作、三重県ではアパートに一人暮らししてお茶作りの実習。ここで親のありがたみをつくづく感じたそうだ。ファームステートとして、フランスやドイツでの研修を行ったことは、マーケットとしての視野がヨーロッパに広がることに繋がったのではないだろうか。

お茶離れの進む現状を何とかしたいというミッションをきっかけ、お茶戦隊茶レンジャーを結成し、市内の小学校で始めた「お茶の淹れ方教室」は13年目を迎える。緑茶のみならず茶業振興のミッションはほうじ茶に広がり、富士市のブランドとして官民手を携えて売り出すリーダーとなっている。

茶レンジャー山田典彦さんのチャレンジに今後も注目していきたい。

（記 I・H）

## 編集後記



区民体育祭が須スポーツフェスタに。ふるさと祭と文化祭が合体してふるさと須マイル祭に。二つのイベント会場のあちらこちらで、創る人、参加する人が楽しむ様子にどこか新鮮さを覚えた。デジタルにどっぷり浸かっている私たちにとって、人とのふれあいが持てる貴重な時間となった。目に見えない信頼関係はまちづくりの宝物。須津の未来も明るい。 クララ



## わたしのふるさと

## 「スリランカ」と言う国を知っていますか

私の母国スリランカは、インド洋に浮かぶ島国で、大きさは北海道と同じ位、その美しい島国の形、美しい自然、そして、サファイアをはじめとする高品質な宝石の産出という3つの要素により、かつては「インド洋に浮かぶ真珠」と呼ばれていました。また、セイロン紅茶やシナモンなどは世界的に有名な産物であり、さらに自然豊かなスリランカは、様々な珍しい野鳥や動物が数多くいる国としても有名です。

民族も宗教も様々ですが、主民族はシンハラ族でその7割は仏教徒。お釈迦様の残した純粋な仏教を大切にしている国です。子供たちはお寺で行われる日曜学校に参加し、他人を思いやり、目上の人を敬うことで自分の心を清めることを学びます。国民の生活や文化、価値観に仏教が深く根付いています。日本でも「自業自得」「四苦八苦」など仏教の教えが元になっている言葉が日常的に使われています。



それでは、スリランカの仏教関係の行事を少し紹介しましょう。5月の満月を迎えた日に行う「ウェサック祭り」は、お釈迦様の誕生、悟り、涅槃を同時に祝う大きなお祭りです。私も子供の頃に、白い服装に身を纏い、家族揃って花やお線香を持ってお寺参りしたことを覚えています。

海に囲まれていることから水産業が盛んなこと、主食が米であること、そして、仏教の教えが普段の生活や日本語の中に息づいていることなど、実は、日本によく似ている点があることを皆さんに知っていただけたらうれしいです。

by ウェルラーラゲ ニワンティ マノーディヤさん（八幡）

今年も、畔柳治年さん（神谷2）が育てた見事な菊の花が、来館者の目を楽しませてくれています。ありがとうございます。



## 題字（須マイル）について

山田 康裕さん（中里3）

スポーツフェスタの様子から、子どもたちの振動・綺麗な汗・柔らかにはしゃぐ姿…そういったイメージをかたちにしてみました。

須マイル編集スタッフ、カメラマン大募集

興味のある方は、須津まちづくりセンター（34-0004）へ連絡ください